

市民説明会の資料について

(平成30年11月30日から12月21日まで、市内10会場にて開催)

1 市立芦別病院の経営問題等について ～ 別紙1に記載のとおり

2 市立芦別病院の現状について ～ 別紙2に記載のとおり

(1) 各データの説明

①常勤医師数の推移

○平成15年～内科7名を含めて常勤医師は19名

○平成20年までの5年間～5名減り、常勤医師は14名

・小児科：16年から休診

・耳鼻咽喉科：16年から非常勤（出張医師対応）

・産婦人科：18年から非常勤（出張医師対応）→分娩不可

○平成25年までの5年間～6名減り、常勤医師は8名

・整形外科：24年から非常勤（出張医師対応）

○平成29年までの4年間～2名減り、常勤医師は6名

・外科：29年から非常勤（出張医師対応）

・麻酔科：29年から休診

○平成30年～常勤医師は5名

⇒15年間で14名減少（15年の約4分の1に減少）

・内科：2.5名（0.5名は循環器科と兼務）

・循環器科：1.5名（0.5名は内科と兼務）

・泌尿器科：1名

②各年度の患者数及び人口の推移

○年延べ入院患者数

平成15年 約6万4千人 → 平成29年 約2万6千人
(15年の約4割に減少)

○年延べ外来患者数

平成15年 約17万5千人 → 平成29年 約6万人
(15年の約3分の1に減少)

③各年度の入院収益・外来収益（診療収入）及び一般会計繰入金の推移

○入院収益

平成15年 約18億3千万円 → 平成29年 約7億2千万円
(15年の約4割に減少)

○外来収益

平成15年 約9億2千万円 → 平成29年 約5億6千万円
(15年の約6割に減少)

○上記の収益減少による収支不足を補うための一般会計からの経営支援

平成24年 3千万円 → 平成25年 約2億5千万円
…その後毎年、2億円から3億円 → 平成29年 約3億3千万円

④外来診療時間割表

○常勤医師のいる診療科

- ・内科：(3名) 月曜から金曜の毎日午前、金曜の午後
- ・循環器科：(2名) 火曜と木曜の午後
- ・泌尿器科：(1名) 月曜から金曜の毎日午前、月曜と金曜の午後

○非常勤医師による診療科

- ・外科、整形外科、耳鼻咽喉科、産婦人科、眼科、皮膚科
- それぞれ週1日から3日程度の出張医師による診療

⑤病床100床当たりの職員数の比較(道央10市立病院：29年度決算)

→市立芦別病院の職員数について、他の市立病院と比較する資料

- ・当院は、道央の10市立病院の平均と比べて、それぞれの区分で平均以下
- ・特に医師数は、5.8人で、平均の10.9人の約半分

⇒他の病院と比較しても、100床当たりの職員は決して多くはない。

⑥医師1人1日当たりの患者数の比較(道央10市立病院：29年度決算)

→市立芦別病院の医師が受け持つ患者数について、他の市立病院と比較する資料

- ・入院は10.5人で、平均の6.7人の約1.6倍
- ・外来は23.6人で、平均の13.1人の約1.8倍

⇒当院の医師が受け持つ患者数は他の病院と比べてとても多い。

⑦救急車による受け入れ患者数

○救急車利用患者数

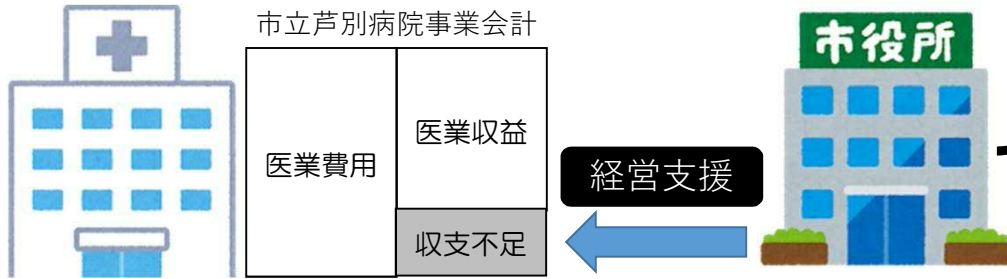
平成16年 672人 → 平成29年 408人 (16年の約6割に減少)

○うち休日・夜間

平成16年 443人 → 平成29年 254人 (16年の約6割に減少)

⇒それぞれ平成16年の約6割まで減少しているが、②の患者数の減少率までは落ちていないため、高齢化に伴って、救急車を利用する患者数は相対的には減っていないと思われ、芦別市で唯一の救急病院としての機能は必要である。

市立芦別病院の経営問題等について



一般会計、奨学資金特別会計、国民健康保険特別会計、下水道事業特別会計、介護保険事業特別会計、介護サービス事業特別会計、後期高齢者医療特別会計、水道事業会計

(本市の状況)
 ・人口減少等に伴う市内経済の縮小
 ・地方交付税の減少
 ・少子高齢化など

上記の状況により、毎年度、留保資金（貯金）を取り崩しながら、行政運営を展開しています。

医師不足、人口減少及び患者の減少により、これまでも医業収益（入院・外来の料金収入等）で医業費用（人件費、医薬材料費、施設維持管理費等）を賄うことができません、毎年度、収支不足分を市の一般会計から補てんを受けています。

このままでは、4年間（H31～H34）で約12億円の補てんが必要となります！

今後も市民への安心・安全な医療体制を確保しなければなりません。

4年間（H31～H34）で、4億円の支援が限度となります。

公立病院として、現状の市立芦別病院を維持していきます！！

抜本的な経営形態の見直しや早急に収支改善等を図ることが必要となります！

- 対応策
- 1. 病院あり方検討会を組織（外部委員を含めて構成）
 - 2. 国（総務省）の経営アドバイザー派遣事業による経営診断
 - 3. 医師の確保要請（大学病院等への要請）
 - 4. 新たな増収策、費用削減策

国の指導のもと、財政健全化法に基づく **経営健全化計画** を策定！

一般会計の貯金は、平成30年度末見込みで約12億円ですが、市税等の収入で各種行政経費を賄うことができないため、今後4年間で約11億円の留保資金（貯金）を取り崩さなければならない状況です。

一般会計からの市立芦別病院事業会計に対する経営支援は、平成31年度から毎年度1億円が限度です。

『経営健全化計画』とは、前年度の資金の不足額を医業収益で割り返した率（資金不足比率）が、自主的かつ計画的にその経営の健全化を図るべき基準として国が定めた『20%』を超えた場合に、『地方公共団体の財政の健全化に関する法律』により策定が義務付けられているもので、公認会計士等による外部監査を受けて作成する計画を、議会の議決を経て策定し、公表することになっています。

① 常勤医師数の推移（各年4月1日現在：30年は12月1日現在）

（単位：人）

診療科	15年		20年	25年	29年	30年
	派遣元	医師数				
内科	札医 第1内科	7	5 <small>17年～1減 20年～1減</small>	3 <small>21年～2減</small>	3.5 <small>27年～1減 29年から非常勤</small>	2.5
外科	札医 第1外科	3	3	2 <small>23年～1減</small>	0 <small>28年～1減 29年から非常勤</small>	0
循環器科	旭医 第1内科	2	1 <small>18年～1減</small>	1	1.5 <small>29年から非常勤</small>	1.5
整形外科	札医 整形外科	2	2	0 <small>23年～1減 24年から非常勤</small>	0	0
泌尿器科	旭医 腎泌尿器科	1	1	1	1 <small>29年から休診</small>	1
麻酔科	旭医 麻酔蘇生科	1	1 <small>16年から休診</small>	1	0	0
小児科	旭医 小児科	1	0 <small>16年から非常勤</small>	0	0	0
耳鼻咽喉科	札医 耳鼻咽喉科	1	0 <small>16年から非常勤</small>	0	0	0
産婦人科	北大 産婦人科	1	0 <small>18年から非常勤</small>	0	0	0
臨床研修医		0	1	0	0	0
合計		19	14	8	6	5

※臨床研修医：新しい医師臨床研修制度による研修を行う医師
⇒平成16年から始まった制度により、医師免許取得後、新たに診療を行う医師は大学病院や厚生労働大臣が指定する病院で、2年以上の臨床研修が義務化されました。

② 各年度の患者数及び人口の推移（人口は10月1日現在）

（単位：人）

項目	15年	20年	25年	29年	対15年
年延べ入院患者数	63,958	46,972	35,778	26,467	41.4%
年延べ外来患者数	175,169	105,243	74,267	59,799	34.1%
（参考）芦別市の人口	20,238	17,859	15,982	14,112	69.7%

③ 各年度の入院収益・外来収益（診療収入）及び一般会計繰入金の推移

（単位：千円）

項目	15年	20年	25年	29年	対15年
診療収入	2,743,157	2,130,776	1,662,421	1,271,208	46.3%
入院収益	1,827,348	1,413,611	1,048,968	715,308	39.1%
外来収益	915,809	717,165	613,453	555,900	60.7%
一般会計からの繰入金	367,286	338,580	599,895	749,413	204.0%
うち経営支援分	0	0	247,243	334,963	

※一般会計繰入金：地方公営企業として運営される公立病院は、自らの経営による受益者からの収入をもってサービスを提供するための経費に充てることが原則（独立採算の原則）ですが、本来一般行政が行うべきものや能率的な経営によっても不採算となる医療に要する経費などは一般会計が負担すべきものとして定められています。経営支援分については、これとは別に、収支不足分の補てんを受けているものです。

④ 外来診療時間割表

診療科	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
内科	午前	羽根田	得能	羽根田	得能	得能
	午後	細川	細川	得能	細川	細川
外科	/				【午前・午後】 （民間：診療日注意）	/
循環器科	/				【午後】 中村・羽根田	【第2金午前】 ペースメーカー外来
整形外科	【午後】 （砂川市立）	/				【午前】 （滝川市立）
泌尿器科	【午前・午後】 新堀	【午前】 新堀	【午前】 新堀	【午前】 新堀	【午前・午後】 新堀	
耳鼻咽喉科	【午後】 （砂川市立）	/				/
産婦人科	【午前・午後】 （北海道大学）	/				/
眼科	/				【午前・午後】 （旭川医大）	【午前・午後】 （旭川区大又は民間）
皮膚科	/				【午前・午後】 （民間）	/

※受付時間、診療時間は診療科により異なります。

⑤ 病床100床当たりの職員数の比較（道央10市立病院：29年度決算）

（単位：人）

区分	芦別	赤平	岩見沢	江別	砂川	滝川	美唄	深川	三笠	留萌	平均
医師	5.8	10.2	12.7	14.7	19.1	13.1	10.1	11.1	4.5	7.9	10.9
看護部門	72.6	84.2	78.5	101.4	100.6	73.6	72.9	94.3	55.5	82.5	81.6
事務部門	8.4	14.5	12.2	10.9	16.5	7.6	15.2	14.3	7.4	8.6	11.6
その他	22.8	25.4	20.1	24.4	39.9	26.5	34.9	23.2	18.9	30.0	26.6
全職員	109.6	134.3	123.6	151.4	176.1	120.7	133.0	143.0	86.3	129.0	130.7

⑥ 医師1人1日当たりの患者数の比較（道央10市立病院：29年度決算）

（単位：人）

区分	芦別	赤平	岩見沢	江別	砂川	滝川	美唄	深川	三笠	留萌	平均
入院	10.5	9.2	5.8	4.5	4.5	5.1	7.2	7.5	6.4	6.3	6.7
外来	23.6	15.9	9.7	9.1	7.7	12.2	14.7	14.3	12.6	10.9	13.1
合計	34.1	25.1	15.5	13.6	12.2	17.3	21.9	21.8	19.0	17.2	19.8

⑦ 救急車による受け入れ患者数

（単位：人）

項目	16年	21年	26年	29年	対16年
救急車利用患者数		672	553	479	60.7%
うち休日・夜間		443	354	310	57.3%